



TAKEFU SSH NEWS

2年探究科「問い」発表会

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 2022. 5. 27 NO. 3

5/11 (水) 5・6 限目に第2化学実験室において2年探究文科人文社会探究の「問い」発表会が行われました。生徒たちはそれぞれ9グループにわかれ、「テーマ」(問い)「このテーマを決定した理由・動機」「調査方法」を4分での発表後、活発な質疑応答が行われました。質問は生徒だけではなく、教員からも鋭い意見が飛び出し、発表者である生徒たちにとってはよい「気づき」が生まれたのではないのでしょうか。また、今後の記録・プレゼンテーションの技能向上も踏まえて、発表の様子をCheomebookで録画しました。オリジナルのテーマに加えて、現3年生の研究の継続研究も2つ見受けられ、いずれも今後の研究が楽しみです。各グループの発表後には、講師としてお招きした仁愛大学准教授・高野秀晴先生から各グループに個別にアドバイスをいただく時間が設けられました。人文社会系の課題研究は何かと難しいと思われがちですが、「問い」をシャープにすることでそのあとの研究が格段によりよいものになります。

続いて5/12(木)5・6限目に第1AV室にて、2年探究理科自然科学探究「問い」発表会が行われました。1グループにつき8分で問いに至った理由や実験方法、検証方法、質疑応答を行いました。アドバイザーとしてお招きした仁愛大学教授・西出和彦先生、冒頭に「みなさん、気楽に。なんでも質問できるように場を崩しましょう。」と声をかけてくださったこともあり、1グループ目から生徒からたくさんの質問がでて、活発な質疑応答となりました。「数値としてあらわすことの大切さ、それを導き出すための信頼できる機材やキットの大切さ」や「『堆肥の質』とは何を指すか」「『最強』という言葉の定義」など、まだまだ生徒たち自身が気づけていなかった問題点が洗い出され「問い」の焦点をさらに絞ることができたのではないのでしょうか。理科の場合、なんといっても予備実験、実験方法、実験結果がすべてになります。それに関連して実験器具の入手方法なども考えなくてははいけません。しかし、生徒たちは身近な問題からスタートして、実験方法、器具等も実現可能な範囲で考えられていることに感心しました。

【探究文科の生徒の感想】

発表の後の質問がどれも的確で、とても参考になりました。少人数のグループで考えると、知らないうちに考えが偏ってしまうことにも気づくことができました。高野先生が最後におっしゃっていたように、楽しくできるということも念頭に置いてこれから活動していきたい。

【探究理科の生徒の感想】

自分たちの発表では、質疑応答で考えてもいなかったことをたくさん聞かれ、新しい側面から自分たちの研究を見直すきっかけになりました。また、他の班の発表を聞いて、研究方法を考える際には得られる結果が数値化できるかどうかを十分考慮しなければならないと気づかされました。



↑5/12(木)の様子は5/22(日)付け福井新聞にも掲載されました!